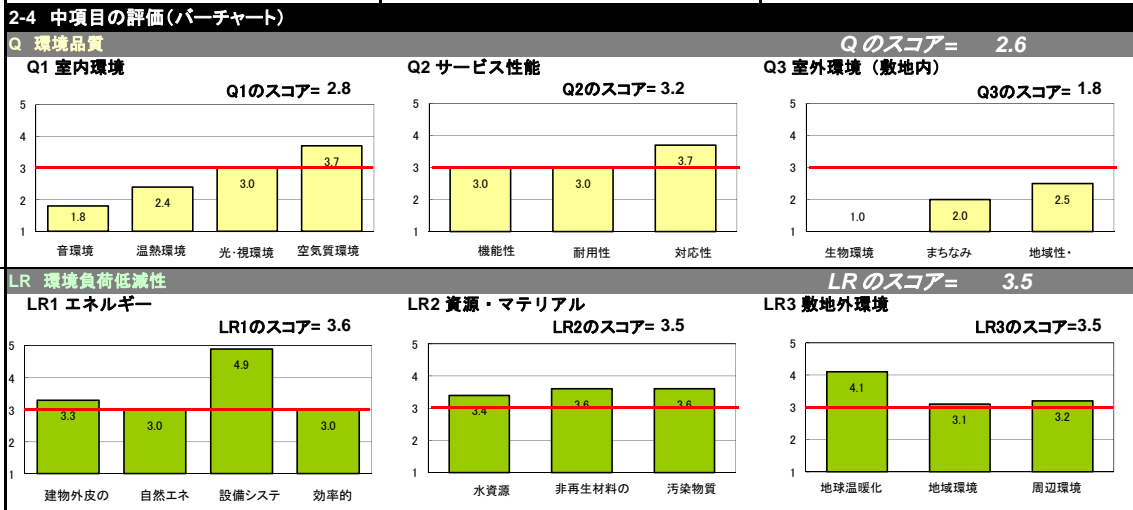
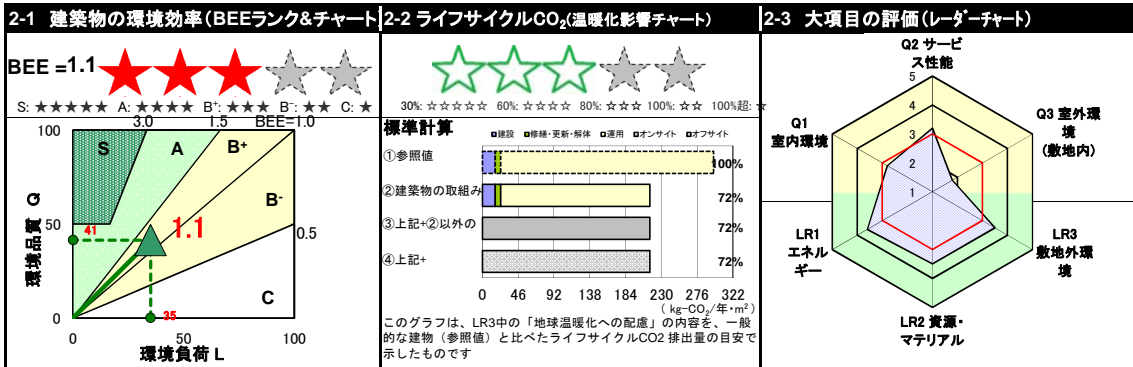


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	DCMカーマ21 瀬戸店 本館 新築	階数	地上2F
建設地	愛知県瀬戸市西原2丁目68番 外	構造	S造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	2,499 人
気候区分	6地域	年間使用時間	4,745 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年1月 予定	評価の実施日	2016年5月30日
敷地面積	7,718 m ²	作成者	株式会社 大本組 田口 繁
建築面積	5,401 m ²	確認日	2016年5月30日
延床面積	9,919 m ²	確認者	株式会社 大本組 田口 繁



3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>2.6 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.6 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.6 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 騒音				1.8	0.15			1.8
1.2 遮音				3.0	0.40			2.8
1 開口部遮音性能				1.0	1.00			
2 界壁遮音性能				-	-			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				-	-			
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				-	-			
1.3 吸音				1.0	0.20			
2 温熱環境								
2.1 室温制御				2.4	0.35			2.4
1 室温				3.3	0.50			
2 外皮性能				3.0	0.50			
3 ゾーン別制御性			マルチパッケージを用いて空調エリアゾーニングを実施	3.0	0.17			
2.2 湿度制御				4.0	0.33			
2.3 空調方式				1.0	0.20			
				2.0	0.30			
3 光・視環境								
3.1 昼光利用				3.0	0.25			3.0
1 昼光率				3.0	0.50			
2 方位別開口				-	-			
3 昼光利用設備				3.0	1.00			
3.2 グレア対策				-	-			
1 昼光制御				-	-			
3.3 照度				-	-			
3.4 照明制御				3.0	0.50			
4 空気質環境								
4.1 発生源対策				3.7	0.25			3.7
1 化学汚染物質			F☆☆☆☆建材を全面的に使用	4.0	0.50			
2 アスベスト対策				4.0	1.00			
4.2 換気				3.0	0.30			
1 換気量				3.0	0.50			
2 自然換気性能				-	-			
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.50			
4.3 運用管理				4.0	0.20			
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50			
2 喫煙の制御			全館禁煙	5.0	0.50			
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ				-	0.30			3.2
1 広さ・収納性				3.0	0.40			3.0
2 高度情報通信設備対応				-	-			
3 ハリアフリー計画		独自		3.0	1.00			
1.2 心理性・快適性				2.6	0.30			
1 広さ感・景観			売場天井高3.6m以上	5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33			
3 内装計画				1.0	0.33			
1.3 維持管理				3.5	0.30			
1 維持管理に配慮した設計			トイレは清掃しやすい内装材	4.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
3 衛生管理業務				-	-			
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震				3.0	0.31			3.0
1 耐震性				3.0	0.48			
2 免震・制振性能				3.0	0.80			
2.2 部品・部材の耐用年数				3.0	0.20			
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.33			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②		3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				2.0	0.23			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.09			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				3.0	0.08			
6 主要設備機器の更新必要間隔			給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用	5.0	0.15			
2.4 信頼性				3.0	0.23			
1 空調・換気設備				3.0	0.19			
2 給排水・衛生設備		②		3.0	0.20			
3 電気設備				3.0	0.20			
4 機械・配管支持方法				3.0	0.20			
5 通信・情報設備				3.0	0.20			
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり				3.7	0.29			3.7
1 階高のゆとり			売場階高3.9m以上	5.0	0.31			
2 空間の形状・自由さ			壁長さ比率0.06	5.0	0.60			
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.40			
3.3 設備の更新性				3.0	0.31			
1 空調配管の更新性		②		3.4	0.38			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性				3.0	0.17			
4 通信配線の更新性			天井点検口、天井内転シ配線により仕上材を痛めずに更新・修繕	5.0	0.11			
5 設備機器の更新性				5.0	0.11			
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22			
				3.0	0.22			

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q3 室外環境(敷地内)								
1 生物環境の保全と創出	独自③			1.0	0.30	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			2.0	0.40	-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮								
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30	-	-	2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				3.0	0.50	-	-	-
				2.0	0.50	-	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性								
LR1 エネルギー								
BPI=0.946								
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.3	0.30	-	-	3.3
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化								
BEI=0.69								
集合住宅以外の評価(3a.3b)				4.9	1.00	-	-	-
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	-
4 効率的運用								
集合住宅以外の評価								
4.1 モニタリング				3.0	1.00	-	-	-
4.2 運用管理体制				3.0	0.50	-	-	-
集合住宅の評価								
4.1 モニタリング				3.0	-	-	-	-
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル								
1 水資源確保								
1.1 節水			自動水栓や節水型便器を積極的に採用	3.4	0.15	-	-	3.4
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				4.0	0.40	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.60	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	-
				3.0	0.33	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減								
2.1 材料使用量の削減				3.6	0.63	-	-	3.6
2.2 既存建築躯体等の継続使用				2.0	0.07	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.24	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自		陶磁器質タイル、フロアリウム、床	3.0	0.20	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材				4.0	0.20	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		内装が乾式工法で分別性・設備との錯綜に配慮	3.0	0.05	-	-	-
				5.0	0.24	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避								
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.6	0.22	-	-	3.6
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.32	-	-	-
1 消火剤				4.0	0.68	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)			発泡断熱材を使用していない(GW)	-	-	-	-	-
3 冷媒				5.0	0.50	-	-	-
				3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境								
1 地球温暖化への配慮								
1 地球温暖化への配慮	①		ライフサイクルCO2概算値:72%	4.1	0.33	-	-	4.1
2 地域環境への配慮								
2.1 大気汚染防止			燃焼機器を採用していない	3.1	0.33	-	-	3.1
2.2 温熱環境悪化の改善				5.0	0.25	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50	-	-	-
1 雨水排水負荷低減	独自			3.5	0.25	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	-
3 交通負荷抑制	独自		敷地内に駐輪場、駐車場を配置、搬入車両用スペース考慮	3.0	0.25	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制			ゴミ量の推計や、有価物の回収を計画	4.0	0.25	-	-	-
				4.0	0.25	-	-	-
3 周辺環境への配慮								
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.2	0.33	-	-	3.2
1 騒音	独自			3.0	0.40	-	-	-
2 振動	独自			3.0	1.00	-	-	-
3 悪臭				-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				-	-	-	-	-
1 風害の抑制				3.0	0.40	-	-	-
2 砂塵の抑制				3.0	0.70	-	-	-
3 日照障害の抑制				1.0	-	-	-	-
3.3 光害の抑制				3.0	0.30	-	-	-
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			光害チェックリスト、広告物照明の過半を満たす	4.4	0.20	-	-	-
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策				5.0	0.70	-	-	-
				3.0	0.30	-	-	-

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

DCMカーマ21 瀬戸店 本館 新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:2.6%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	階高を高く設定し、壁長さ比率を小さくすることにより、空間にゆとりをもたせている。
Q1 室内環境	F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分に配慮している。
Q2 サービス性能	天井高を高くするなど心理性・快適性に配慮している。 内外装共防汚性に配慮した材料を使用するなど、維持管理に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	視線を遮らない様な境界壁等の設置など防犯性に配慮している。
LR1 エネルギー	高効率空調機、LED照明を採用するなど、設備システムの高効率化に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や、節水型機器を用いるなど、水資源を保護している。 発泡断熱材を採用しないなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を72%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 燃焼器具を採用せず、大気汚染の防止に配慮している。 駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、管理用車両・荷捌き車両の駐車施設を確保するなど、交通負荷の抑制に配慮している。
その他	—